

## 式 辞

本日ここに、蕪崎市制施行六十二年の記念式典を挙行いたしましたところ、ご来賓の皆様をはじめ、市議会議員、行政委員、並びに市民代表の皆様におかれましては、公私ともご多忙の折にもかかわらず、ご臨席を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

皆様には、常日頃から、市政の推進にあたり、格別なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

蕪崎市は、昭和二十九年、一町十ヶ村が大同団結し、市制を施行して以来、六十二年という尊い歳月が重ねられてまいりました。

その間に注がれてきた多くの先人諸賢並びに市民一人ひとりの惜しみないご労苦と情熱に思いを馳せ、あらためて深甚なる敬意と感謝を表したいと存じます。

大村智名誉市民のノーベル賞受賞決定から、一年が経過し、その間、市民を挙げて大村先生に祝意を表し、本年五月には、大村先生ご本人をお迎えする中、皆様と一緒に手作りでご画した「お祝いする会」を成功させることができました。

蕪崎大村美術館はもちろん、先生のかつての通学路である「幸福の小径」、神山町内に咲くわに塚のサクラ、ノーベル賞受賞記念大会とした花火大会など、これまでにない多くの人出に恵まれた一年間でもありました。

昨年来続いているこの本市にとっての追い風を一過性に終わらせることがないよう、折しも来年平成二十九年には、蕪崎大村美術館が開館十周年を迎えることから、その記念事業として、大村先生のご厚意により美術館収蔵庫を増築するとともに、本市といたしましたとしても、収蔵品の図録を作成するほか、先生のご功績を紹介する記念展示室を館内に開設いたします。

また、「幸福の小径」には、多くの皆様からの浄財によりまして、本年の年末には先生の銅像が建立されますとともに、平成三十年の公開を目指し、「世界の平和と人類の幸福」をテーマとした芸術作品が展示されることとなっております。

さて、人口減少社会の到来により、全国の地方都市では地域コミュニティの弱体化が懸念されております。「地方消滅」も指摘されるなど、人口の増減にばかり気を取られがちですが、このような時こそ自分たちのまちをいかに磨き、魅力的にしていくなかを考えるべきであり、そのための人づくりが重要な課題となっております。

現在、国が提唱している「地方創生」の取り組みが全国的に加速化されておりますが、本市の潜在能力を最大限発揮するためには、人材育成こそ最も必要であると考えているところです。

この七月に延べ二百万人の来館者をお迎えするとともに、先月には開館五周年を迎えた葦崎市民交流センター「ニコリ」では、「葦崎市立図書館」の名称を「葦崎市立大村記念図書館」と改称し、大村先生も意を注いでいらっしゃる後進の育成を目指すほか、末永く親しんでいただける施設とした運営を開始したところです。

これまで一部しか活用されていなかった地下スペースにおきましては、中学・高校生育成支援のための交流拠点となる「青少年育成プラザ」を開設いたします。

この場所では、最大の地域資源である市内の若い世代が故郷への愛着を深め、進学等により一度は県外に転出したとしても、将来は葦崎に戻って活躍したいと望む気持ちを育んでいく「にらさき愛育成・カムバック支援事業」に取り組んでまいります。

また、ワイナリーを中核とした観光拠点の実現を目指す「赤ワインの丘プロジェクト」、既存区画が優良な企業の立地により、完売したことから、新区画拡張に向け協議を進めている上ノ山・穂坂地区工業団地における企業誘致、子育てと生涯学習という地域にとっての大きな二つの課題に取り組む再編第二保育園の整備など、主要プロジェクトにつきましては、昨年策定した「葦崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき鋭意取り組み、その基本理念とした「働く世代とその子どもたちが輝くまちづくり」の実現に向け、「チーム葦崎」として英知と汗を結集してまいります。

本日の記念式典では、引き続きこの後、多年にわたりそれぞれの分野におきまして市政発展のため、献身的な活動を続けてこられた方々に、表彰状並びに感謝状を贈呈いたします。受賞者の皆様のご功績に対しまして、心から敬意を表しますと共に、深く感謝申し上げます。次第であります。

どうか皆様におかれましては、今後とも健康にご留意され、ご活躍されますようお祈り申し上げます。

さて本年は、米国フェアフィールド市との姉妹都市締結四十五周年を記念し、総勢五名の親善使節団をお迎えいたしました。

私も五月に親善使節団として米国を訪問したところではありますが、ハリープライスフェアフィールド市長をはじめ、ホストファミリーの皆様や本市との交換留学経験者など、多くの方々との交流を深めることができました。

本日、アーレッタ・コートライト会長を代表とする、フェアフィールド・萠崎姉妹都市委員会に国際親善功績表彰を贈呈できますことは、大変な喜びとするところであります。

あらためて両市の末永い交流が世代を継いで続いていくことにご期待申し上げます。次第であります。

なお、本日はこの後、市民交流センター「ニコリ」におきまして、「青少年育成プラザ」のほか、アートギャラリーにおいては、峡北美術協会による「萠崎ニコリ展」など、オープニングセレモニーを開催いたします。

また、萠崎駅前通りから本町通りを会場として、「武田の里フェスタ・萠崎」が開催されておりあります。

「ふるさとの秋」を感じながら、多くの市民の皆様楽しんでいただけるよう努めておりますので、ご参加の上、お楽しみいただけますと幸甚に存じます。

終わりに、本市の輝ける未来のため、市政発展にまい進していくことをお約束するとともに、「自分たちのまちをより良くするため、自分たちでできることは自分たちで行う」、そういった郷土愛に基づく、自主的でかけがえのないまちづくりへのご参加を市民の皆様から賜りますようお願い申し上げます。

本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様を始め、市民の皆様のご健勝とご多幸を衷心からご祈念申し上げます、式辞の結びといたします。

平成二十八年十月九日

葦崎市長 内藤 久夫